

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>	「薬の世界」入門 Introduction to Pharmaceutical Sciences and Ethics					担当者所属 職名・氏名	薬学研究科	教授	中山	和久	
							薬学研究科	教授	松崎	勝巳	
							薬学研究科	教授	加藤	博章	
							薬学研究科	教授	金子	周司	
							薬学研究科	教授	高倉	喜信	
							薬学研究科	教授	掛谷	秀昭	
							薬学研究科	教授	石濱	泰	
							薬学研究科	教授	高須	清誠	
							薬学研究科	教授	小野	正博	
							薬学研究科	教授	土居	雅夫	
							薬学研究科	講師	三宅	歩	
							附属病院	教授	松原	和夫	
化学研究所	教授	緒方	博之								
化学研究所	准教授	今西	未来								
群	健康・スポーツ科目群			分野(分類)	健康・スポーツ科学(発展)		使用言語	日本語			
旧群	B群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）				
開講年度・ 開講期	2024・前期		曜時限	月3		配当学年	主として1回生	対象学生	理系向		
[授業の概要・目的]											
薬学は、医薬品の創製、生産、管理、適正使用にわたる広範な領域を包括する総合科学である。その一方で、薬の有効性・安全性に関する科学的観点からは、人類の健康に貢献する責任を負う実学でもある。このような視点から、本授業では薬学の学問・研究、社会的使命、薬学倫理等の概要を理解することを目的とする。薬学は総合科学であるため各専門家によるリレー形式とするが、教科書を使用し、適宜プリントにて補足することによって学習の助けとする。											
[到達目標]											
・ 科学者としての研究倫理と創薬研究者としての生命倫理に関する基本的事項を理解する。 ・ 医薬品が創り出される基本原理と医薬品の適正使用を理解し、創薬研究・医療薬学研究に必要な学問の役割とそれらの関わりについて説明できる。 ・ レポート作成に関する基本的事項を習得し、それらを遵守してレポートを作成できる。 ・ 各講義課題に対して自ら調査・考察することで、自主的、継続的に取り組む能力を養う。											
[授業計画と内容]											
以下のテーマについて講義する。 1. 導入講義（全体の趣旨説明、レポート作成・引用のルール、成績評価法など） [松崎] 2. 生命倫理・研究倫理・薬剤師倫理 [三宅] 3. 健康と病気の違い [中山] 4. 創薬ケミカルバイオロジー：自然に学ぶ薬づくり [掛谷] 5. 薬と化学：京大薬学部の研究から生まれた新薬 [高須] 6. 医薬品の標的タンパク質の構造決定 [加藤] 7. 薬・タンパク質の測定 [石濱] 8. 薬の作用機構 [金子] 9. 生体リズムと時間薬学 [土居] 10. からだの中の薬の動きの操作法 [高倉] 11. 遺伝子工学の創薬への応用 [今西] 12. 創薬における生体イメージング [小野]											
「薬の世界」入門(2)へ続く↓↓↓											

「薬の世界」入門(2)

- 1 3. ヒト細菌叢解析のためのバイオインフォマティクス [緒方]
1 4. 医療薬学の実践と展望 [松原]

[履修要件]

特になし。いずれの学部でも、創薬科学、医療薬学に興味を持つ学生の履修を歓迎する。

[成績評価の方法・観点]

レポート課題3つ(30点)、小テスト等による平常点(70点)に基づいて評価する。

[教科書]

京都大学大学院薬学研究科『くすりをつくる研究者の仕事ー薬のタネ探しから私たちに届くまで』
(化学同人) ISBN:978-4-7598-1931-1

[参考書等]

(参考書)

奥田 潤、川村 和美『薬剤師とくすりと倫理』(じほう)

[授業外学修(予習・復習)等]

指定された教科書で各講義に関連する章を授業前に熟読し、参考書等でさらに調べておくこと。
講義で出されるレポート課題については、講義終了後に自分で参考資料を集めて調査する。

[その他(オフィスアワー等)]